

第五十六師團第四野戰病院略歴

病院長 長崎義雄

年月日	概	要
昭一六、二二五	臨時編成下令	
一三、二五	編成第一日	
二三	編成完結	
一七、二一六	開司港出帆	
一七		
三、二七	「ラングーン」上陸	
自 四	「ビルマ」進攻作戦参加中「ケマピュー」ラシオレ道「モンコン」南方六軒	
至 五	附近に於て軍医將校一戦死「ナンカン」ロミイトキーナレ道「パーモ」に於て衛生兵一戦病死	
自 六	「ビルマ」勦定後師團は「ラシオレ」以北及中華民国雲南省警備に任ず	
至 一九、四	当院は「ビルマ」ラセノウイレに野戦病院を「ナンカン」に患者療養所を開設 本期間に於て衛生下士官一兵二計三名戦病死第五十六師團軍医部勤務に派遣中 の衛生下士官一中華民国雲南省芒市に於て敵機の爆撃により受傷し戦傷死 内地より補充要員として「ビルマ」上陸前進途中「ビルマ」國「ピンマナ」に	

年月日	概要
昭 自一九、五 至 九、九	<p>             於て敵機の銃撃に依り受傷し輜兵一戦傷死              主力は八号作戦参加の爲（一部は依然コセンウイに患者療養所を開設              第五十三師団長の指揮下に入りコイングウ方面に前進途中更に第三十三軍司              令官直轄に入らしめられコミイトキナレ鉄道コタウニローコイングウに              に展開し患者の収養後送に従事し衛生准尉二（輜下士官一衛生下士官一計四名              戦病死衛生下士官一（輜）女一戦死す              輜軍兵第五十六聯隊に派遣輸送業務に従事中的（輜）下士官一コビルマレ国              コマンガレに於て戦病死              第五十六師団病馬廠に派遣中の衛生下士官一（輜）女第五十六聯隊に派遣中の              （輜）下士官二計三名中華民国雲南省騰越に於て敵の包囲下に在りて同地守備隊              と共に奮戦中全員戦死の際戦死確定              八号作戦参加中衛生下士官コマリアレにかゝり昭一九、六、二二日コインド              ウレ患者療養所第百二十四兵站病院に入院爾後送せられコラングーンに第百              六兵站病院に於て戦病死              衛生兵一コマリアレにかゝりコマンガレに患者療養所第百二十一兵站病院              に入院爾後送せられ昭二〇、二、二五日附にて佛印信第一七〇。一。部隊を              （病名マリアレ）（三月熱）兼急性大腸炎一治療退院せしめたる旨同隊より           </p>

~674~

自一九一〇、  
至二〇、三

通報ありたるも本人帰着せざるま、終戦となり通信不可能にて所在(駐属先部隊)不明

衛生兵一脚気兼「マリア」にか、リ「ウン」トウ「第百七兵站病院」に入院爾後後送せられ昭二〇、三、十日附信六〇九二終丙第八四号を以て信第六〇九二部隊より内地還送の目的にて病院船により後送(上陸地台湾基隆の予定)せし旨通報ありしも終戦となり爾後の所任行動不明

主力は八号作戦より原所属に復帰し直ちに断作戦に参加し「センウイ」に野戦病院送放瞭町「ナン」パツカ「ク」ンロ「ナム」オン「患者療養所」を引続き「ナム」サン「ナム」マン「コ」ハク「野戦病院」を「ラ」シオ「諫山橋」に「ナム」ソ「ナン」ラン「患者療養所(集合)」開設し患者の收療後送に従事申齒科医「衛生」下士官二(聯)兵一「衛生」兵一計五名戦死「衛生」兵一戦傷死(聯)下士官一「衛生」士官一計二名戦病死「聯」重兵第五十六聯隊に派遣中の(聯)下士官一戦死「衛生」兵一「精神分烈症」の疑にて「ナム」オン「第五十六師団」野戦病院に入院爾後各地衛生機関を経て後送せられし、終戦となり調査の結果 昭二〇、七、三〇日在「バン」コツク「南方」第十六陸軍病院に收容せられ(病名 偏執病 兼左坐骨神経痛)同年九月二日偏印金邊に向い転進せし旨通報あり爾後の所在不明

225

2402

年月日	概	要
昭二〇、四 至 八	克作戦間「ライカレ」コナンパレに野戦病院を「ロイユレホレ」に 患者療養所「シセン」菊兵橋に患者中継所を夫々開設し患者の收容後送に従事 中軍区将校一衛生下士官三計四名戦死衛生下士官一戦傷死衛生将校一衛生下士 官三計四名戦病死	要
自 九 至 二二	終戦後集結のため北茶之引橋き南茶之と就動を開始し「サルウイン」河渡河後 「チヨベニ」茶畑道標一ニの哩「メツヤア」に夫々患者中継所を「ライパ ン」に野戦病院を開設し患者收容後送に任じつゝ南下中衛生下士官四(輔) 下士官一衛生兵一計六名戦病死す	要
自 三二 至 五	「シヤム」国「ナコン」ナヨ「ケ」集結間衛生下士官一戦病死す 歴代部隊長名 軍医少佐 大場 正 朝 同 長崎 義 雄	要
	部隊事情精通者	要
	全般 福岡県小倉市鳥町二三 軍医大尉 池田 勲 功績級位級関係事項 福岡県糟屋郡早良町龜山三荒社宅 衛生大尉 原 口 辰 一	要

年月日	概	要
	<p>福岡県朝倉郡朝倉村古毛一六五二</p> <p>衛生准尉 熊谷芳雄</p> <p>恩賞死歿者（入院患者を含む）関係事項</p> <p>大分県日田市東町二丁目大字竹岡七一一</p> <p>衛生大尉 相良 伍</p> <p>佐賀県杵島郡江北村上小田二五六</p> <p>衛生曹長 木屋 広一</p> <p>福岡県嘉穂郡山田町下山田四八七</p> <p>同 小野山福次</p> <p>入院患者関係事項</p> <p>佐賀県佐賀市央賀町一五三</p> <p>主計大尉 中島貞善</p> <p>山口県下関市勝山地区勝斎町四三八</p> <p>同 曹長 山田朝人</p> <p>衛生材料関係事項</p> <p>栃木県塩谷郡藤原町吉町葉柳大尉 村岡優二郎</p> <p>渡辺徳次方 衛生曹長 横田政則</p>	

~6911~

第五十六師団病馬廠略歴

代理

一カ男

年月日	概	要
昭和六、三、二二	編成完結	
一七、三、二六	蘭頁上陸	
自 六、二〇	「ラシオ」進駐以来同所に在りて傷病馬の收療に在す	
至 一三、三二	「クツカイ」進駐	
自 三三	同所に在りて任務遂行中下士官二 兵一戦病死せり	
至 一九、五、九	騰越進駐（一部芒市及「クツカイ」分駐）	
自 一〇	断作戦参加中騰越に於て将校四 下士官七 兵二戦死せり	
至 九、一四	断作戦（転進）中「モンユー」に於て兵一戦死	
二〇、一、三三	断作戦（転進）中「ドウラケ」に於て下士官三戦死せり	
七、三三	断作戦（転進）中「ドウラケ」に於て下士官三戦死せり	
八、	恭園に転進	
自 一	「ナコン」ヨークレ集結途中下士官三 兵六戦病死せり	

1678~

至三、四一〇

二〇、一〇、一〇

二一、三、一五

龍參編第九号に依り編成改変（第十三兵站病馬廠を一部及第十七軍馬防疫廠の  
一部並に緬甸方面軍野戰貨物廠東北西北各支廠要員を合す

龍參編第一二号に依り第十三兵站病馬廠員名第四師団に転属せり

歴代部隊長名

大尉 水野 三治                      大尉 馬場 静雄

少尉 川原 長平

部隊事情精通者

住所 福岡県鞍手郡植木町字下町五七三 歡匠中尉 小田 順治

福岡県粕屋郡古賀町一二五〇 同 准尉 中川 敬造

佐賀県三養基郡三川村大字東津九六七

同 曹長 中島 光次

第五十六師團病馬廠部隊略歴

(旧第十七軍馬防疫廠見支廠)

年月日	概	要
昭和十八年一月一日	見支廠編成	
自 一〇	「ウ」号作戦九号作戦並に次期作戦準備中「カ」カレ附近に於て下士官一行方不明	
至 一九、六、六		
自 二七	断作戦第一期参加戦死行方不明者なし	
至 一〇、五		
自 六	断作戦第二期参加戦死行方不明者なし	
至 二二、三		
自 二二	断作戦第三期参加戦死行方不明者なし	
至 二〇、三、二〇		
自 二二	断作戦第四期参加戦死行方不明者なし	
至 四、九		
自 一〇	克作戦参加戦死行方不明者なし	
至 八、一四		
自 一五	終戦業務戦病死兵三 入院下士官三 女七	

9  
の  
外  
ビル  
マ  
原





第五十六師團病馬廠部隊略歴

(旧第拾七師馬防疫廠「タウンカー」支廠)

代理 一 カ 男

年月日	概	要
昭二九、三、八	「タウンカー」支廠編成	
自 二〇、一、二六	盤作戦参加戦死行方不明なし	
自 一七	「イラワジ」河畔会戦「メイケデー」附近の会戦参加「キヤフセ」南方二十	
至 四、二	料地点に於て戦死将校一 下士官負傷入院兵一行方不明なし	
自 八、五	終戦業務に従事戦病死下士官一 兵一 入院患者将校一 下士官四	
至 二、四、一五	行方不明兵一	
	支廠長 獣医大尉 一 カ 男	
	部隊事情精通者	
	住所 熊本県熊本市京町二丁目二〇四	
	獣医大尉 一 カ 男	
	福島県那賀郡羽甫町大字宮倉字羽甫居内一三三	
	獣医中尉 谷川 豊明	

7075

2409

10  
の  
内  
ビルマ  
隊

独立混成第二十四旅団司令部略歴

陸軍少将 作間 喬 宣

年月日	概 要
昭一、九、一	緬甸国「モールメン」に於て編成完結
自 三、三、一	空地防衛強化並に次期作戦準備
自 三、三、二	十号討伐実施
自 三、三、三	「ウ号作戦」に参加
自 七、三、七	北緬各地戦中「モール」附近の戦に於て戦死三 戦病死一九
自 七、三、一〇	行方不明一（将校一名交戦中生死不明）
自 七、三、一三	断作戦に参加
自 一〇、一、一	艦作戦に参加

~123~

2410



独立歩兵第百三十八大隊部隊略

年月日	概	要
昭一六、九、三三	独立混成第四連隊編成完結	
一〇、一〇	宇品港出帆	
三二	佛印海防に上陸木後北部佛印の警備	
一、三六	泰国に移動木後同国の警備に任ず	
八、三七	北部馬來に專進木後同地方の警備に任ず	
一〇、三二	独出守備歩兵第四二大隊に改編同日第十五單隷下に入り緬甸向專進を命ぜらる	
一八、一五	昭南出帆	
二二	蘭貢上陸「コーナセリウナ」地区の防衛を命ぜらる	
二二、一四	「タボイ」に到着木後同地区の防衛兵站業務に任ず	
一八、四、三	緬甸方面單司令官の隷下に入り第六防衛管区の防衛後方業務に任ず同日主カは「モールメント」に集結を命ぜらる	
九、二〇	前任務の外「ミハ」輸送「メルギ」ト「イエ」間の輸送を担当す	
一九、一、八	新たに独立歩兵第一三八大隊に改編せられ独立混成第四旅団の隷下に入らしめらる	

505

年月日	概要
一、二六	大隊は「タニピサヤ」に専進し「モールメント」具（放逐道轄地区を除く）の防衛に任じ主として築城を実施す
二九	大隊は主力（ニケ中隊二二〇名）を以て「パパン」附近の討伐を命ぜらる
三一五	討伐を完了す
一五	歩兵一箇中隊（械関税配属）は比緬作戦のため出動す 十月部隊復帰す
六五	混成一箇中隊（約七〇名）を以て「チヤインセギ」附近の土進討伐を実施す 八月終了す
二〇、三二五	大隊は主力へ歩兵ニ中 械関銃対戦車砲六中 迫一中配属（約五五〇名）を以て「バゲル」附近に出動を命ぜられ一部（歩兵一中 械関銃一 小軽迫一小）約一〇〇名位を以て「パパン」に出動を命ぜらる
四、五	以後「バゲル」附近出動部隊に同地区及緬軍の討伐に従事す 「バゲル」附近出動部隊は「シツタン」兩岸にありて敵英軍「パパン」出動部隊は同地敵空廷部隊の掃蕩及後退部隊の援護に任ず 六月下旬後略す
六、二九	部隊主力は「シツタン」附近より専進し「イエ」附近の警備を命ぜられ「イエ」に到着す 尔後主として同地区の防衛に専任す
七、七	七日以後月末に到る間三日の「アカン」へ「イエ」東方地区の討伐を実施す

706

<p>八、一〇 大隊主力は「ラマノーン」に集結を命ぜらる</p> <p>第三面混成一中隊</p>	<p>一四 停戦命令受理</p>	<p>三〇 大隊は「タニビザヤ」に集結を命ぜらる</p>	<p>一〇、二〇 大隊は「ペニカ」在りて「モートメント」南方地区の対英労務に従事す</p>	<p>二一、七、一 大隊は「モールメント」に集結、大隊は「モールメント」地区の対英労務に従事す</p>	<p>三三、三〇 大隊主力は「ラングーン」に集結、大隊は「ラングーン」に集結、大隊は「ラングーン」に集結</p>	<p>ニ三、六、八 大隊は内地帰還のため「アロン」に集結</p>	<p>一九 「ラングーン」出帆</p>	<p>七、四 守呂に上陸す</p>	<p>五 復員完結</p>	<p>歴代大隊長名</p>	<table border="0"> <tr> <td>陸軍中佐</td> <td>大塚 寅</td> </tr> <tr> <td>同 大佐</td> <td>小原 金 祐</td> </tr> <tr> <td>同 大尉</td> <td>次 隆</td> </tr> <tr> <td>同 大尉</td> <td>松本 正一(代理)</td> </tr> </table>	陸軍中佐	大塚 寅	同 大佐	小原 金 祐	同 大尉	次 隆	同 大尉	松本 正一(代理)
陸軍中佐	大塚 寅																		
同 大佐	小原 金 祐																		
同 大尉	次 隆																		
同 大尉	松本 正一(代理)																		

~5011~

独歩第百三十九大隊部隊略歴

第四十八兵站警備隊  
 独立歩兵第百三十九大隊  
 独立歩兵第百七十一大隊

年月日	概	要
昭和十六年八月三日	<p>第四十八兵站警備隊                      編成地 長野県松本市                      編成擔任部隊 歩兵第百五十聯隊（東部第五十部隊）                      編成動員完結年月日</p>	<p>昭和十六年八月三日                      警備隊長 陸軍少佐 天野 虎三 以下一〇四六名                      本部歩合四中队 機関銃一中隊 歩兵砲一小隊</p>
一六、八、三四	大阪港出帆	
自一七、一、一六	第三軍隷下に下りて牡丹江地区の軍需品輸送業務	
至五、三、六	南 部	
自一、一、一八	スマトラ作戦並警備（参加部隊 第一中队 第四中队 一小隊 機関銃下隊）	
至三、九、五	ジャワ攻略作戦（参加部隊 第三中队 第二中队下隊歩兵砲小队）	
自五、五、五	右（参加部隊 本部第四中队 第二中队及機関銃主力）	

708



12 の 外 ビルマ 原

年月日	概要
昭二七、三、九	
自 三、一〇	ジャワ戦定作戦並兵站業務
至 九、九	
自 九、一〇	ジャカルタ地区防衛業務
至 一八、七、九	
自 八、二四	ビルマ国タンピユガヤ、に任りて茶箱鉄道建設業務並警備
至 一、一、七	独歩第百三十九大隊
	編成地 ビルマ国タンピユガヤ
	編成担任部隊 第四十八兵站警備隊
	編成完結年月日 昭和十九年一月八日
	部隊編成(独混第二十四旅団隷下)
	大隊長 陸軍中佐 調 所 賢 輔 以下八九六名
	大隊本部 歩兵四中队 銃砲隊一小隊
	空地防衛強化並次期作戦準備(於ビルマ国タポイ)
自 一、一、九	
至 二、九	

409

2416

年月日	概	要
昭一九、一、三〇	ウ号作戦	
至 三一九		
自 三、二〇	九号作戦	主力は北面地区に出動し、調所、山本両大隊長相継で戦死
至 四一八		美並大隊長継承す
自 二九	八号作戦	戦死者約 三〇〇名
至 七五		生死不明者 八九名
自 三、三	断作戦	
至 二〇、一、一		
至 六、五	恭園並にテナセリウム地区防衛作戦	
至 六、五	粗歩第六百七十一大隊 昭二〇、六、二〇日以降	
	編成地	ビルマ国タホイ
	編成担任部隊	独歩第百三十九大隊
	編成完結年月日	昭和二十年六月二十日
	部隊編成(独混、第二十九旅団隷下)	
	大隊長	陸軍少佐 美並芳雄
	大隊本部歩兵第四中隊	銃砲隊 第一中隊

2417

昭二〇、六、二〇	奉国並テオセリウハ地区防衛戦
至 八、一四	
自二〇、八、一五	終戦処理並英軍作業に従事
至二二、一、一七	大隊長美並少佐昭和二十年十二月十二日聯合軍に召換されたるにより 第一中隊長 陸軍中尉 平山平志大隊長代理となる
自 一、三一	主力を以て「タンピエ」ガヤレー「イエ」間道路構築作業に従事
至 四、一七	一部は「タボイレ」にて英軍作業に従事
自 三、三三	「ムドン」地区集結、英軍及自隊作業に従事す「タボイレ」残留部隊到着
至 六、一五	部隊は陸軍大佐 工藤 新の指揮下に入る
自 七、九	ラングーン市（「ゴカイン」）「ミンカラドン」「アロン」に在りて英軍並一般
至 一八	労務並工兵作業隊として労務に従事す
三三、七、七	ラングーン埠頭より摂津丸乗船 出帆
七、	守品港上陸
七、	復員完結

独歩第四百十大隊部隊略歴

年月日	
昭、一九、一、八	<p>編成完結</p> <p>メルヤール地区防衛</p> <p>二、五 第九十四師団歩兵第百五十七大隊に編入</p> <p>註 同部隊は更に昭和二十年六月二十日          独立混成第三十九旅団独立歩兵第百          五十九大隊に編入し終戦時に至る</p>

212

0115

2419

独立歩兵第百四十一大隊部隊略歴

年月日	内容
昭一九一八年三月	モートルメンに於て編成 総員数約 三七八名 マグロ比編作戦参加時に於て部隊の総員約 七〇五名 (出勤部隊 四四二名) (残留部隊 二六三名)
一六	マガロに於て内地よりの補充員到着せるに依り総員約 八五一名 比編作戦より転進モートルメンに集結時 総員約 九八六名
二〇、二一、二二、二三日	タンピユハヤに於て大東亜戦争終了時 (死歿者 生死不明者を含む) 総員約 一三二二名
二二、二六、二七日	モートルメン港より乗船時の部隊人員現況 (死歿者 生死不明者を含む) 乗船者 七四八名 戦傷死 一三〇名 逃亡者 四名 入院患者 一九二名 戦病死 二一二名 内地還送者 五名 行方不明者 七名 転出者 四三名 其の他 一六名 在籍人員 九六七名

独立混成第二十四旅団砲兵部隊略歴

年月日	概	要
明一九一八 三、五、 四、五	緬甸國「モールメン」に於て編成完結す（中迫撃第二大隊を基幹として改編） 九号作戦参加のため北緬に出動	
自 一八 至 一八	「モール」附近の戦斗に参加、本戦斗に於て戦死将校一兵四、戦傷死兵一計六	
自 五、二〇 至 五、二五	「ナムクイン」附近の戦斗に参加、本戦斗に於て戦死将校一兵五、	
自 六、初 至 六、初	「ミートキーナ」県「ホピン」附近の警備並討伐に従事此の間 戦病死下一兵三	
自 八、下旬 至 八、初	「モールメン」に転進本転進間戦死下二兵一三、戦傷死兵一、戦病死下二 兵四九、尚戦病入院せるもの二八名は爾後消息不明なり	
自 二〇、三 至 二〇、三	「タンピサヤ」附近に位置し「ラナセリム」地区沿岸防衛並次期作戦 準備に従事	
自 三、初 至 三、初	第一中隊主力「シツタン」方面に出動	
自 六、初 至 六、初	五月初旬「アピヤ」附近の戦斗に参加し戦死将校一、下一兵一八を出す	

29/14

自 九 至 歸 還 迄	コタンピサヤノ附近に位置し主力をもつて英軍所命の道路作業に従事 兵一 戦病死
歴代部隊長名	少佐 服部 邦正 少佐 赤田 実守

715

715

2422

独立混成第二十四旅団工兵隊略歴

年月日	概	要
昭一八、一〇、一四	大坂府高槻工兵隊第四連隊補充隊に於て第十七要塞工兵隊として編成完結	
二七	間司港を出帆	
一一、二	高雄「マニラ」を経て「シンガポール」に上陸南方軍の隷下に入り同地にありて待機	
一六	軍令陸甲第一〇六号を以て第十七要塞工兵隊の復帰（復員）下令独立混成第二十四旅団工兵隊の編成に着手下士官以下二十一名を独立混成第二十九旅団工兵隊に転属	
二六	主力は「シンガポール」を出發	
一三、一六	緬甸国「モールメン」に到着	
一九、一、八	見習士官以下三十名を独立混成第二十四旅団司令部に兵三十三名を独立歩兵第百四十一大隊に夫々転属	
八	第十七要塞工兵隊の復帰（復員）を完結	
	独立混成第二十四旅団の工兵隊の編成を完結	
	尔後同地に在りて空地防衛強化並に次期作戦準備に従事	

716



年月日	概 要
一、三、一	旅団命令により第一小隊を「ナ」号討伐に参加
三、三、三	
一、三、三〇	部隊主力は「メルギ」レー「タホイ」間の道路橋梁の架設並に補修作業に従事
三、三、三三	三月三十一日旅団命令に基き北編作戦参加のため「パララケ」を發し「モールメン」に「ペグ」レー「マンゲ」レーを發して同年四月一日「インドウ」に到着
	本隊「マウル」レー「トロン」レー附近の戦斗に参加す
五、一	第一小隊は旅団命令により本隊追及を命ぜられ「パラシケ」出發
二、五	「インドウ」に到着主カと合す
二、六	主力佐藤少尉以下四十八名は「ホピン」レー「イワテ」モ「ニン」附近の警備並に橋梁及道路補修に任ぜられ其の處「マシカ」レー「ヌ」レーの戦斗に参加せり
六、五	浅田小隊は「モ」レー「カウ」レー前進「モ」レー「カウ」レー河の敵前渡河作業に任じ第兵団の搬送作戦を援助せり
八、三、五	旅団命令により浅田小隊は「インドウ」に集結
九、三、〇	「インドウ」に集結同地附近の警備に任ず
一〇、一、七	原住地「モールメン」に帰還を命ぜられ「インドウ」を發し「サカイン」レー「ペグ」レーを發して十一月二十九日「モールメン」に到着す
	北編作戦各地戦中左の損耗を出せり
	戦死一七 戦傷死三 戦病死三六 行方不明六
一三、四	旅団命令により「タンビヤ」レーに務駐

~911~

年月日	概要
昭二二二	工兵第二連隊補充隊より將校以下五〇名補充員を受領部隊に編入し尔後本部
三二七	コタンビザヤレに置き旅団警備地域内の道路橋梁の架設並に補修作業等に任ず 第一小隊佐藤少尉以下四十名は旅団命令に基きコパコンレに出動す 第四分隊を第百三十八隊丹原隊に配属小隊主力はコパプンレコピリンレ間の補修 を命ぜらる
四一	コピリンレに到着尔後に於てコピリンレ河の橋梁架設渡河準備作業を続行
六一	五月二十九日旅団命令によりコタンビザヤレに帰還す 此の間に戦死三を出せり
自 四三五	部隊主力は旅団命令に基き対戦車阻止作業実施のためコシツタンレ附近に 行動す
至 五二五	部隊主力コタンビザヤレに帰還直後矢野小隊はコアマハリストレコセテセレ 海岸防備作業に任じ須田小隊はコゴドーレに前進海岸防備陣地構築並にコイ エレ鉄道線路を自動車道に改修作業に任じ一方佐藤小隊はコサカンガレ河 橋梁架設並にコアメクインレコラマインレ間の橋梁架設中昭和二十年八月十六 日、日本軍の全面的降伏を知ると共に旅団命令により一切の作戦行動を停止し 部隊主力をコタンビザヤレに集結せしめ尔後旅団命令に基き武装解除受理準備 をなしおたり

19/8

昭	九、五	<p>激工命第一号の如く将校以下二十名をして「ヒラセ」海岸自動車道の構築作業の任せしむ</p> <p>尔後英軍の「タンビザヤ」墓地清掃 飛行場の建設並に「タンビザヤ」「イエ」間の新道路の構築作業に従事</p>
	二、四、三三	<p>道路完成と共に全員「パンガ」宿営地に帰還す</p>
	三〇	<p>激命第三〇号に基づき部隊は「ムドン」宿営地に移駐を完了す</p>
	自 五、一〇	<p>部隊主力は「モールメン」ゴルカ連隊となる</p>
	至 六、三九	<p>掘命令第三号により「ランゲーン」に移駐を命ぜらる</p>
	三七	<p>「モールメン」より乗船</p>
	三九	<p>「アロン」に上陸</p>
	七一四	<p>尔後「コカイン」「ミンガランド」に於て英印軍の労役に連せり</p>
	自 一四	<p>「アロン」乗船ギャンプに移動を命ぜらる</p>
	至 三、六、七	<p>「ランカーン」「ボンギ」埠頭より換装丸に乗船内地に帰還す</p>
	七、七	

479

独立混成第二十四旅団通信部隊略歴

年月日	概	要	摘要
昭二九、一、八	編成完結（同日通信隊編成完結）		所在地
自 一、三〇	ウ号作戦（九号）に参加		モールメン
至 三、一七			モールメン
自 一、一六	インドウレ、コマウルレ、トロンロンレ附近の戦斗に参加		
至 四、一七			
自 一、二八	ホピンレ附近警備		
至 一、一五			
自 一、一六	モールメンレに転進		
至 二、二二			
自 二、一六	モールメンレに在りて同地附近の警備		モールメン
至 二、二四			
自 一、二五	ラマインレに在りて同地附近の警備		ラマイン
至 一、二八			
自 一、二二	タンピサヤレに在りて同地附近の警備		タンピサヤ
至 一、三三			

1720

年月日	概要	摘要
昭和 八、三	英軍の労務に従事	タンビサヤ
自 至二、五	英軍の労務に従事	ムドン
自 至六、二	内地帰還のためV0二六号に乗船	モールメン
五、三	守備港上陸	守品
七、三	復員	守品

521

2428

独立混成第百五旅団司令部略歴

年月日	概	要
昭二〇、一、五	<p>森七九。〇参編第ニ六三号に依り左記の如くラングーン市及同市周辺地区の海空地警備防衛に任ず</p> <p>蘭第六二部隊 (ラングーン混成旅団司令部)</p> <p>第三十一歩兵团司令部要員を主体とす</p> <p>蘭第六三部隊 (歩兵第一大隊)</p> <p>第五十三兵站警備隊主力及第七十三兵站警備隊の一部</p> <p>蘭第六四部隊 (歩兵第二大隊)</p> <p>第七十三兵站警備隊の主力</p> <p>蘭第六六部隊 (後砲兵隊)</p> <p>要員は方面軍司令官充当 (1900)</p> <p>森 〇 分 106          〇 〇 〇 10LBK          〇 〇 〇 24B</p> <p>三、一〇 軍令陸甲第二八号により左記の如く独立混成第百五旅団編成完結</p> <p>爾後蘭貢市及同市周辺の海空地警備防衛に任ず</p> <p>独立混成第百五旅団司令部 (蘭第六二部隊充当)</p> <p>編成表別紙の如し</p>	<p>編成表別紙の如し</p>

~7725~

昭	自	自	自	自
二〇、三、一五	四、三、一五	三、八	五、二	七、九
独立歩兵才四百五十一大隊（蘭才六三部隊充当）	独立歩兵才四百五十二大隊（蘭才六四部隊充当）	独立歩兵才四百五十三大隊（缺）	独立混成才百五救団砲兵隊（蘭才六六部隊充当）	独立歩兵才四百五十三大隊編成完畢として陸軍中尉 森 敏男以下三二七名 現地召集 同日之が教育隊を編成す
独立歩兵才四百五十三大隊編成	陸軍少佐 吉野 広を仮編成部隊長に任命せり	作戦のため主力を以て蘭貢よりコペグーに前進せり 作戦	コペグー市附近の戦斗	コペグー山脈コウビヤンゴン附近遊撃戦此の作戦の功により 緬甸方面軍司令官より慰状を受与せらる
				シツタン河東方地区集結の爲の作戦
				緬甸国コピリニに於て独立歩兵才四百五十三大隊の編成完結せり

~423~

年月日	昭二〇、八
概	独立混成才百五旅団編甸団「タトシ」集結終戦となる 歴代部隊長 初代 陸軍少将 松井秀治
要	

5  
1  
ト  
カ  
レ  
マ  
東

424

2431



独立歩兵第百五十一大隊略歴

年月日	概	要
昭二〇、三、一〇	軍令陸甲オ二十八号によりラングーンに於て編成完結し独立混成オ百五旅団の編合に入る	
自二〇、三、一〇	河コバンダワテイレ地区(ラングーン西南方アルタ地帯)の警備を担任地区内	
至 四、二六	警備及ビルマ国軍及此部隊の討伐に從事す	
自 一六	損耗 戦死一	
至 二二	「ミンカラドン」飛行場に於て対空挺警戒	
自 三〇		
至 五	「ペゲール」会戦参加 損耗戦死三五 戦傷三二 生死不明七	
自 二		
至 七、三	「ペゲール」山系中に於ける敵又照注妨害書及敵状搜索	
自 四	損耗戦死八六 戦傷二一 生死不名六	
至 八、一三	「マケール」山系より「マンガレー」公路及「シツタン」河突破「テナセリウ」地区に進出のための転進作戦	

~225~

年月日	概
	<p>           損耗靴死一六 生死不明一一六            部隊行動中特異なる事項            「ペグー」会戦以降後方諸体系を有せず且雨季最盛季に於てペグー山系に棲息間給与一切は部隊自らこれを突施せる状況にして衛生材料の皆無、戦半行動の運統に依り兵員体力の減耗甚しく引続き約一ヶ月半に亘るほとんど夜間行動に依る山地及混地の転進作戦に当り転進間に受傷せる患者半病患者中相当数の落伍者を生じ衛生機関を有せず敵中約三〇〇將を突破せしため生死不明者を出し其の中俘虜となりたるもの相当ありと当時の状況より判断せらる            歴代部隊長名            陸軍中佐 戸倉清次 自 昭二〇、三 一〇            同 大尉 伊藤嘉雄 自 昭二〇、九 一〇            至 復員時         </p>

独立歩兵第四五二大隊略歴

大隊長 陸軍少佐 堀 重太郎

年月日	概	要
昭二〇、三、三〇	縮成完了、蘭貢河口警備続行	
四、一七	連合軍南下部隊邀撃のため主力(本部オ一中隊(一小隊)オ二中隊 銃砲隊)は「ペグール」に向い前進(エレフアント)警備隊、残留一中隊 約一小隊)主なる装備 銃砲隊 機関銃四 迫撃砲一二	
	中 隊 軽機関銃各六 擲弾筒各六	
	爆 薬 携帶地雷 擲弾器等撥行	
四、三三	「克」作戦中「ミンカラドン、タニゴン」に於て将校一 下士官兵四戦死	
自 三九	「克」作戦中「ペグール」附近に於ける敵戦車部隊の邀撃戦斗中戦死将校三	
至 五一	下士官兵一九 生死不明下士官兵約三一	
自 二	蘭貢河口残留警備中の「エレフアント」警備隊並にオ一中隊 オ一小隊追及	
至 六九	「克」作戦中「ペグール」西北方高地にありて遊撃戦続行中戦死下士官一〇、	
	戦病死下士官兵二	
自 一〇	「堅」作戦中「ペグール」西北方高地にありて遊撃戦続行中戦死下士官兵三	
至 七、三	戦病死六 生死不明約一二	

年月日	概	要
昭和 自 七、四 至 八、四	<p>「堅」作戦中「シツタン」河以東に向い密林湿地帯中の戦戦作戦中          戦死将校五 下士官兵六八 戦病死将校一 下士官兵七          生死不明将校三 下士官兵約一二一 尚将校一 下士官兵一二          敵手に入りたる疑あり          右期間中爾他の地に於ける損耗 戦死下士官兵三 戦病死下士官兵四          生死不明将校一          戦病死下士官兵五</p>	<p>終戦後の損耗          歴代部隊長 陸軍少佐 堀 重 太郎          部隊事情精通者 島根県松江市母衣町一三四 陸軍大尉 宮 本 俊 夫          山口県玖珂郡柳井町五福之三二八四六稻上信代方          同 神 坂 駿 一          長崎県南松原郡崎山村長手柳一三二          同 准尉 松 堀 常 吉</p>

~228~

独立歩兵第四百五十三大隊略歴

代理 陸軍大尉 山本好之助

年月日	概	要
昭二〇、八、五	軍令陸甲才三十八号に依り編成着き	
一〇	編成完結（於ビルマ国ピリン）	
一四	終戦	
二八	陸軍中尉 森 藤男以下二七四名現地召集解除	
九、一	ビルマ国タトン県タトンに集結	
二二、六、一	内地帰還のためランカーン港出帆	
二三	宇品上陸	
二四	復員完結	
	歴代部隊長	
	初代	
	陸軍少佐	
	渡辺	
	正博	

2436

独立混成第百五旅団砲兵隊略歴

年月日	概	要
昭二〇、一、五	コランゲーンに於て編成	
自 一、五	コランゲーンに附近の戦斗 警備勤務	
至 八、一四		
二一、五	以降逐次内地に輸送	
二三、七、三〇	復員を終了す	

~150~